

## ヒト培養皮膚モデルを用いる皮膚刺激性試験

### <試験方法>

試験概要	<p>ヒト培養皮膚モデルを用いて、検体の皮膚への刺激性を予測する試験です。</p> <p>試験方法は OECD TG439 に準拠し、J-TEC 社製のヒト培養皮膚モデルキットを使用して実施致します。</p> <p>検体をヒト培養皮膚モデルに接触させ、15 分間培養します。その後検体を除去し、MTT 法により細胞毒性を測定します。細胞生存率が 50 %を超える場合は「刺激性無し」、50 %以下の場合は「刺激性有り」と判定致します。</p> <p>動物試験との結果の一致率は 80 %以上*です。</p> <p>* JACVAM 評価報告書より</p>
試験結果	水(陰性対照)適用時の細胞生存率を 100 %として、各検体の細胞生存率を相対的に求めます。
試験料金	30 万円/1 検体 40 万円/2 検体 50 万円/3 検体
注意点	<p>検体の性質により、分析不能となる場合がございます。</p> <p>※試験結果を「分析不能」とご報告させて頂いた場合でも、規定の料金を申し受けます。また、キット発注後の依頼キャンセルについては、試験の実施有無に関係なく発注にかかる費用を申し受ける場合がございます。予めご理解、ご承知おきの程お願い致します。</p>
検体必要量	約 10 g

## ヒト培養皮膚モデルを用いる皮膚腐食性試験

### <試験方法>

<p>試験概要</p>	<p>ヒト培養皮膚モデルを用いて、検体の皮膚への腐食性を予測する試験です。</p> <p>試験方法は OECD TG431 に準拠し、J-TEC 社製のヒト培養皮膚モデルキットを使用して実施致します。</p> <p>検体をヒト培養皮膚モデルに接触させ、3 分間及び 60 分間培養します。その後検体を除去し、MTT 法により細胞毒性を測定します。この結果を指標として検体の皮膚腐食性を判定致します。</p> <p>動物試験との結果の一致率は 76.4 %*です。</p> <p>* OECD TG431 (2019) より</p>																
<p>試験結果</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="504 1021 975 1070">細胞生存率 (%)</th> <th data-bbox="975 1021 1294 1126" rowspan="2">皮膚腐食性の分類</th> </tr> <tr> <th data-bbox="504 1070 735 1126">3 分間適用</th> <th data-bbox="735 1070 975 1126">1 時間適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="504 1126 735 1182">&lt; 50</td> <td data-bbox="735 1126 975 1182">—</td> <td data-bbox="975 1126 1294 1232" rowspan="2">腐食性</td> </tr> <tr> <td data-bbox="504 1182 735 1232">≥ 50</td> <td data-bbox="735 1182 975 1232">&lt; 15</td> </tr> <tr> <td data-bbox="504 1232 735 1290">≥ 50</td> <td data-bbox="735 1232 975 1290">≥ 15</td> <td data-bbox="975 1232 1294 1290">非腐食性</td> </tr> </tbody> </table>				細胞生存率 (%)		皮膚腐食性の分類	3 分間適用	1 時間適用	< 50	—	腐食性	≥ 50	< 15	≥ 50	≥ 15	非腐食性
細胞生存率 (%)		皮膚腐食性の分類															
3 分間適用	1 時間適用																
< 50	—	腐食性															
≥ 50	< 15																
≥ 50	≥ 15	非腐食性															
<p>試験料金</p>	<p>40 万円/1 検体</p> <p>60 万円/2 検体</p> <p>80 万円/3 検体</p>																
<p>注意点</p>	<p>ヒト培養皮膚モデルを用いる皮膚刺激性試験の注意点をご参照ください。</p> <p>なお、腐食性ではなく刺激性の有無を調べたい場合は、OECD TG439 の試験をご検討ください。</p>																
<p>検体必要量</p>	<p>約 10 g</p>																